

当院回復期リハビリ病棟における運営戦略

風晴 俊之¹⁾ 中島 崇暁¹⁾ 腰塚 洋介¹⁾ 吉田 淳子²⁾ 田中 直子²⁾
美原 盤³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 看護部

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに]当院回復期リハビリ病棟の在院日数は短く、稼働率は90%を上回ったことがない。今回、経営的および臨床的側面からデータ分析を行ない、今後の運営方針について検討した。

[方法]過去5年の年間の稼働率と実患者数、平均在院日数について相関係数を求めた。また平成29年度に入院上限日数を180日とする脳血管疾患等の患者を対象に、在院日数、FIM-M利得を調査し、在院日数ごとにFIM-M利得と実績指数を比較した。

[結果]稼働率と実患者数には関連を認めなかったが、稼働率と在院日数は有意な関連を示した。在院日数が長い患者はFIM-M利得も大きかったが、実績指数は低値であった。

[考察]脳卒中患者のFIM改善幅はリハビリ開始時大きく、徐々に小さくなり、在院日数の延長は効率性を低下させる。しかし、在院日数の延長は稼働率およびFIM-M利得を向上させる可能性が高く、当院にとって運営上のメリットは大きい。